

ほけんだより

病児・病後児保育室「みどり」
令和4年11月20日発行



今月のテーマ 「傷の手当て」 についてです！

こどもに多い傷はすり傷、切り傷です。傷が出来たときは傷の部位、大きさ・深さ、どこでけがをしたか、何でけがをしたかをチェックしましょう。



手当ての方法

ここポイント！

(1) 傷口を流水でやさしく洗う

砂や汚れを落とします。傷口に異物が刺さっている場合は、ピンセットで取り、きれいに洗い流します。

(2) 止血する

小さな傷ならガーゼを当てて傷の上から、少し大きな傷は、傷口よりも心臓に近い位置を、最低5分は圧迫して止血します。このとき、傷口が心臓より高くなるようにします。

(3) 創傷パッドを貼る

傷口から出る浸出液が治癒を促すため、乾かさないように保護して「湿潤環境」を保ちます。この場合、治癒に必要な細胞を守るために消毒はしません。

1～3日程度で貼り替え、様子を見ます。かさぶたができてきたら、創傷パッドは外して大丈夫です。

注意

15分以上の激しい出血(動脈からの出血の場合は脈打つように血が噴き出ます)の場合は救急車を呼びましょう。

さびた釘やいたんだ木片、植物などが刺さった時、傷口に砂や異物が入って取れない場合は、化膿や破傷風の危険性があるので応急処置をした後、病院を受診しましょう。また、縫う必要があるほどの大きな傷や、傷が深い場合も病院を受診しましょう。